

# モノづくりマネジメント技術革新

～ モノづくりへの挑戦 メイドイン ヒロシマ ～

## 参加のお勧め

近年のモノづくりは、これまでのように供給側が考える高品質/高信頼性を追求するにとどまらず、顧客が想定する以上の価値を提供し、感動を与える品質づくりが求められています。お客様の要求にこたえるためには、技術力の蓄積が重要であり、ベース技術を磨き、積み重ねる活動を愚直に実施継続することが肝要と考えます。

今回は、そのような厳しい状況下において、まさしく、お客様のニーズを先取りし、成功された取り組み事例を、広島県の地場産業の中から選び、シンポジウムを企画しました。

講演①では、今までの既成概念にとらわれず、生産条件の理論値革新を技術スタッフで進め、その革新技術を生産現場全体へ量産適用・水平展開する際に、それを、「良品稼働率管理」という手法を使って、現場で維持改善していくスパイラルを構築した事例を、西川ゴム工業株式会社 齋藤 修 様に、ご講演いただきます。

そして、講演②では、開発部門と生産技術部門が過去の常識にとらわれず、部門の壁を乗り越え、一括企画のモノづくりに挑戦した『SKYACTIV TECHNOLOGY』による車づくりについて、マツダ株式会社 松田 健二 様に、ご講演いただきます。

今後のモノづくりを考える上で、是非、ヒントをつかんでいただきたいと思います。講演の後は、広島大学 大学院 工学研究科 高橋教授と講演者とのパネルディスカッション、そして、参加者との総合質疑応答を行い、より実りのあるシンポジウムにしたいと計画しておりますので、多数のご参加をお願いいたします。

□日時 ; 平成 25 年 10 月 24 日 (木) : 13 時 30 分～17 時 00 分

□会場 ; 広島商工会議所 : 1 階\_101 会議室  
広島市中区基町 5-44  
TEL ; 082-222-6610 (代表)

主催 ; 中国地区品質経営協会

## ■ プログラム

時間	内容
13:30~13:35	開会挨拶；中国地区品質経営協会：運営委員_中川 幸法
13:35~14:40	講演① テーマ『現場力向上活動 ～工程管理改革～』 西川ゴム工業株式会社 三原工場/吉田工場 執行役員 齋藤 修 氏
14:40~14:55	- 休憩 (15分) -
14:55~16:00	講演② テーマ『マツダのモノづくり革新 ～プラットフォーム戦略～』 マツダ株式会社 車両開発本部 P F (プラットフォーム) 主査 松田 健二 氏
16:00~16:15	- 休憩 (15分) -
16:15~16:55	パネルディスカッション/総合質疑応答 コーディネーター 広島大学 大学院 工学研究科 教授 高橋 勝彦 氏
16:55~17:00	閉会挨拶 中国地区品質経営協会：運営委員_岩崎 浩

## ■ 講演①概要

### 「現場力向上活動 ～工程管理改革～」

特に生産方式は、2000 年前半までの流れ生産（コンベア生産方式）から脱却し、多品種少量生産に適応すべく進化させた『セミ生産セル方式』、更に極限までリードタイム短縮を盛り込んだ『完全セル生産方式』へとモノづくりの方法を変化させてきました。

しかし、その生産方式の変化を大きく表わすと、単一作業から多能工化への変革であり、それを実現する為に、工程監督者もあらゆる面から改善出来、判断できる経営感覚を身に付けた人材へ変化をしないといけない時代に突入してきました。近年、特に重点を置いて活動している内容として、『変化点管理活動』/『良品稼働率管理』/『教育訓練』という3つの観点で、ロボットや自動加工機といった機械に頼らず、人に頼った製造工程の中で、如何に良い物を、より易く、短納期で生産していくかを追求してきた結果、今まで我が社で取り入れたことの無い管理手法を展開した事例を紹介させていただきます。

□講師 齋藤 修 氏

西川ゴム工業株式会社 三原工場・吉田工場 執行役員

[略歴]

- ・1986年 近畿大学 工学部 経営工学科卒業
- ・1986年 西川ゴム工業株式会社入社
- ・1998年 西川タチャプララートラバー（タイ） 製造副社長
- ・2004年 吉田工場 工場長
- ・2010年 三原工場 工場長
- ・2013年 吉田工場/三原工場 執行役員

**■ 講演②概要**

## 「マツダのモノづくり革新 ～プラットフォーム戦略～」

マツダは、2006年以來、モノづくり革新に取り組んで参りました。そもそも何故、モノづくり革新が必要になり、活動するに至ったのか？マツダは、2007年に対外的にサステイナブルZoom-Zoom宣言を発表いたしました。この思いは、マツダ車の全てのお客様に、「走る喜び」と「優れた環境/安全性能」を提供する、ということです。そのためには、すべてのモデルに採用できる優れた技術を『手頃な価格』で実現することが必要です。全車種にかつ、普及可能なコストで展開する、というのは、従来通りの開発や生産のやりかたではとても実現できない、と2006年当時、判断しました。私たちは、モノづくりのやり方にも大きな変革が必要だと考えたのです。そのモノづくり革新をどのような考え方、プロセスで実践してきたか、プラットフォーム領域の事例をまじえ、説明させていただきます。

□講師 松田 健二 氏  
マツダ株式会社 車両開発本部 P F (プラットフォーム) 主査

## [略歴]

- ・1984年 九州工業大学 工学部 機械工学科卒
- ・1984年 マツダ株式会社 入社
- ・2009年 ボデー開発部 部長
- ・2013年 車両開発本部 P F 主査

**■ パネルディスカッション・総合質疑応答**

□コーディネーター 高橋 勝彦 氏  
広島大学 大学院 工学研究科 教授 (工学博士)

## [略歴]

- ・1986年 早稲田大学 理工学部 助手
- ・1988年 早稲田大学 大学院 理工学研究科 機械工学専攻 単位取得退学
- ・1989年 広島県立大学 経営学部 経営情報学科 講師
- ・1989年 広島県立大学 経営学部 経営情報学科 助教授
- ・1994年 広島大学 工学部 助教授
- ・2001年 広島大学 大学院 工学研究科 助教授
- ・2003年 広島大学 大学院 工学研究科 教授 現在に至る

## [現職]

- ・デミング賞委員/日本経営工学会副会長・中国四国支部副支部長
- ・日本生産管理学会理事/日本スケジューリング学会理事
- ・青山学院大学客員研究員、他

## [専門分野]

- ・経営工学 中でも生産管理

■ 会場案内



- J R 広島駅から電車または、バス
- ・バス停；市民球場前
  - ・バス停；広島バスセンター
  - ・電停；広島電鉄 原爆ドーム前
  - ・アストラムライン；県庁前

広島商工会議所 1階 101 会議室  
 広島市中区基町 5-44

T E L ; 082-222-6610 (代表)

■ 参加要領

【定員】 150 名

【参加費】 会員会社 無料 (非会員会社 3,000 円/一人)

【申込締切日】 平成 25 年 10 月 11 日(金)

【申込方法】 申込用紙に必要事項を記入の上、郵送/F A X または E メールで申込下さい。

シンポジウム 「モノづくりマネジメント技術革新」 参加申込書

申込先 ; 中国地区品質経営協会 行

T E L ; 082-532-6844 F A X ; 082-532-6845

〒733-0011

広島市西区横川町 3 丁目 5 番 9 号 (世良ビル 404 号)

E-m a i l ; [qmac@al.mbn.or.jp](mailto:qmac@al.mbn.or.jp) U R L ; <http://qmac.jp/>

会社名	申込責任者 ; T E L ; E-m a i l ;
住所 (〒 )	
参加者名	所属 / 役職
参加者 ( 計 名 )	受付確認連絡 必要 ・ 不要
参加費 ( 計 円 )	請求書発行 必要 ・ 不要

※ご記入頂いた企業/組織および個人情報、参加申込受付処理並びに当協会からのセミナーや行事のご案内のために使用します。